瀬戸の常識5 ('Д')ダレ?

陶祖

加藤四郎左衛門景正(藤四郎)ってだれ?

昔話?実話?本当にいるかわからない、伝説の人物!

藤四郎は鎌倉時代に曹洞宗の開祖道元に従って中国にわたり、優れた中国のやきもの技術を学んで帰国します。その後、瀬戸の祖母懐で良い土を見つけ、瀬戸で窯を開いたとされます。しかしこれは江戸時代に書かれた伝記で、鎌倉時代の記録はないため実在したかどうかは不明です。

スゴサを伝えるための、世界最大級の記念碑

陶祖公園にある「六角陶碑」は藤四郎の偉業を称えるため、慶応2年(1866)につくられました。その巨大さにより焼いた窯をこわして取り出したといわれています。六面にわたって刻まれた碑文には藤四郎の伝記が799文字の漢文で書かれています。

人気高級ブランド!その名も「古瀬戸」

古瀬戸は鎌倉時代の瀬戸でつくられた、中世の日本で唯一釉薬をかけたやきものです。中国のやきものをモデルにした高級な陶器で、平安時代の終わりごろから生産されており、室町時代には北は北海道、南は九州にまで流通するほど人気のやきものでした。この古瀬戸からはじまる瀬戸のやきものづくりが「せともの」のはじまりであり、「せともの」のはじまりが藤四郎伝説として語り継がれています。

六角陶碑の内部調査

陶祖800年祭(平成24〜26年度)のときに六角陶碑の調査を行ったところ、碑の中には石がいっぱいつまっていました。石には「法華経」というお経が墨で書かれていました。藤四郎をしのんで多くの人々が碑の中にお経を納めたことがわかりました。